



友愛の森(二中だより)

学校教育目標

二中文化を創造する生徒

学びが深まる授業の創造・認め合える学級の創造・共に高め合う学校の創造

令和7年7月3日発行



中体連開幕

校長 山元 勝久

6月28日(土)から、富士宮市中学校総合体育大会(通称:中体連地区大会)が開幕しました。ご承知の通り中体連大会は全国大会まで続く大きな大会であり、多くの中学3年生にとって“中学時代最後の大会”となります。全国大会まで続くということは、「優勝して大会を終えることができるのは各種目において全国で1チーム(個人戦では1人)のみ。それ以外の全ての選手は“最後の大会を敗北で終える”」ということになります。

この文を執筆している7月2日現在までで本校の部活動は、ソフトテニス、野球、バドミントン、バレーボール、サッカーの5種目に出場しました。ソフトテニスでは6月とは思えない暑さの中で長時間戦い抜く姿を、野球では学校の柵を越えて芝川中と励まし合う姿を、バドミントンでは驚くほど機敏に動き回ってシャトルを追う姿を、バレーボールでは2年生チームでありながら果敢に他校3年生に挑んでいく姿を、本校選手の皆さんに見せていただき感激しました。

中でもサッカーのトーナメント1回戦「二中 VS 芝中柚野中合同チーム」の試合は心に残りました。試合が始まって最初に感じたのは相手チームとの体格の差です。私の目には相手チームの選手は一回り大きく感じられました。そんな状況の中、技術も気力も劣ることなく互角の攻防が続きました。しかし、徐々に相手チームの個人技が冴え始め、1点、2点・・・と得点を奪われていきました。試合後半戦の残り時間も少なくなった頃には、0対5と大きく差がひらいていました。この光景を見ていることは私にとってとても辛く、「こんなに差がついては生徒が試合を投げ出すのではないか」「立ち直れなくなってしまうのではないか」と心配になりました。

しかし、どんなに大差をつけられようと、終了の笛が鳴る瞬間まで体をぶつけ合いながら一生懸命にボールを追いかける二中選手の姿には、勝つこととは別の「誠実さ」「逞しさ」「気高さ」がありました。そして選手と同じように最後まで、「勝敗よりも大切な“試合に臨む姿勢”や“1つ1つの素晴らしいプレイ”を讃えて応援し続けた二中応援席の皆さんの姿」にもとても感動しました。

0対5の大敗でしたが、大敗だったからこそ本当に大切な事を改めて二中選手に教えてもらいました。二中サッカー部選手を心から尊敬すると共に、とても誇りに思います。負けてしまいましたが、きっと皆さんなら新たな目標に向かって「誠実に」「逞しく」「気高く」頑張れると信じています。

「卒業生一日先生の日」講演会を開催しました。(6月6日)

今年度の「卒業生一日先生の日」は、富士宮市消防本部警防救急課参事兼情報指令室長であり、富士市・富士宮市消防指令センター副センター長の助野大輔様にご講演をいただきました。演題を「将来、世の中で活躍するために、今、学べきこと～今だから言える中学生へのアドバイス～」として、今後の生き方を充実させるために、中学生としてどのように生活していったら良いかについてお話しいただきました。



「Live119」実演の場面

お話の後半では、スマホで現場を映しながら救急隊のアドバイスを受けることができるシステム「Live119」の実演をしていただきました。実際の通信を間近で見ることができ、切実感を持って学ぶことができました。

富士宮二中壮行会を開催しました。(6月19日)



これまで、楽しい場面も多かったと思いますが、苦しかったこと、つらかったこともたくさんあったと思います。



それら全てを力に変え、後輩の思いを胸に、最高の「夏」にしましょう！感動を巻き起こしましょう！



1・2年生応援団のリーダーシップで全力応援することができました！
応援団の皆さん、練習や準備、ありがとうございました！